

過去の医薬の歴史に学び、
未来を創造する使命を持った医学・薬学を志す者、
医療従事者にぜひ読んでほしい1冊。
そして待合室で患者さんの手にとって貰いたい1冊である。

人と薬の羅針盤

黎明編

編著：ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ

定価2,940円(本体2,800円)

B5横判／オールカラー223ページ／2013年5月刊／じほう発行

地中海を取り巻く古代エジプトから古代ギリシア、
そして帝政ローマに至る西洋医学・薬学の痕跡を巡る

医薬分業は、1240年神聖ローマ帝国の皇帝フリードリヒ2世の「皇帝の書」に始まると言われている。なぜ、「医」と「薬」の分離が必要であったのだろうか。その答えは歴史の中にある。本書はその答えをみつけに地中海を取り巻く古代の国々(エジプト、ギリシア、トルコ、イタリア)を巡った医薬の歴史紀行である。750点余に及ぶ写真を掲載。医薬の歴史とともにその時代の政治、宗教、文化、美術、芸術、生活様式なども取り上げている。ギリシア語のパルマコンpharmakonは、「薬」と「毒」の2つの意味がある。薬と毒は表裏一体であり、薬は人類の知恵の賜物でもあるが、使い方を間違えれば死を導く毒薬ともなる。



